MUSASHINO for TOMORROW

Vol.133

巻　頭

好きで入った道を ただ真っ直ぐに

桂文治（落語家）

卒業生インタビュー

武蔵野卒業生としての 誇りを胸に

脇山亜希子

（寺田倉庫株式会社 執行役員／
公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会理事）

表紙：江古田キャンパス　リストプラザ

April 2020
vol.133

学長退任にあたり

学校法人　武蔵野音楽学園　理事長　福井直敬

このたび令和2年3月31日をもって、私は武蔵野音楽大学学長、並びに同附属高等学校校長を辞任させていただきます。後任には前副学長、福井直昭が就任いたします。

顧みますと、前任の福井直弘学長の急逝に伴い、昭和56年10月急遽学長、校長に就任してから40年にも及ぶ間、多くの皆様から筆舌に尽くし難い心温まるご厚誼、ご指導、ご支援を賜わり、今日まで務めることができました。深く感謝を申し上げますとともに、後任者へも変わらぬご芳情を賜わりますようお願い申し上げます。

就任当初を振り返りますと、我が国は華々しい発展途上にありました。所謂18歳人口も180万人を数え、平成4年の第2次ベビーブームに向かって増加の一途を辿っており、私学運営には恵まれた時代で、多くの高校、大学が新･増設されました。

このような状況のもと、本学園では埼玉県入間市に広大な第2キャンパスを開発し高等学校（音楽科）を新設、また昭和51年から大学1，2年次生をここに移転して授業を開始しました。しかし、第2キャンパスへのアクセスの関係などから、教職員、学生間に異論や反目があり、この計画の推進に苦労をしたのが忘れられぬ思い出です。その後、既存の短大や夜間部を廃止し組織の簡素化を図る一方、博士後期課程を新設するなど、改革や施設設備の充実に携わりました。

平成も後半になると、急速に進む少子高齢化、また経済状況の停滞など社会情勢は一変し、私学を取り巻く環境は年ごとに厳しくなりました。本学園では平成29年、江古田キャンパスの全施設を新・改築して大学の全学生をここに集約し、同時に学科の統廃合を行って、教育、経営両面から抜本的な改善と効率化を図りました。以来3年が経過し、学生は近代的なキャンパスにすっかり馴染み、日々明るい学生生活を送り学修成果も着実に向上しております。

上述のように、このたび随所に工夫を凝らした新校舎を幸い外部負債も無く完成し、大学が2つのキャンパスで教育を行っていた時期には減少傾向にあった学生数も、着実に回復しつつあります。只今、明年の“楽器ミュージアム”開館に向けて空調工事が進行中で、これと併せて“学園記念室”の開室も予定しており、これらをもって江古田キャンパス新設工事はひとまず終了いたします。

近年、私学は厳しい環境に置かれる中で、教育研究の充実向上、また経営の強化が厳しく問われております。本学園もまだまだ為すべき事案、進めたい計画を残してはおりますが、学園内の雰囲気は平穏であり同窓会も大変協力的な存在で、本学園の建学の精神「〈和〉のこころ」並びに教育の方針を基本とする今後の発展に多くのポテンシャルを秘めていると信じ、私の年齢とも照らし辞任をお願いした次第であります。なお当面、理事長の任は続けさせていただきますので、倍旧のご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

就任のご挨拶

武蔵野音楽大学学長　同附属高等学校校長　福井直昭

このたび第4代学長に就任し、大学運営に責任を負うことになりました。その重責に身の引き締まる思いです。これまでの学生の精進、教職員の努力は勿論のこと、卒業生ならびに地域や様々な関係各位のご支援を賜ったからこそ、今日の本学があります。あらためて皆様に敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。今後とも皆様のご協力とご支援を得て、大学の運営・発展に尽くしたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

武蔵野音楽学園は、1929年に武蔵野音楽学校として創立され、1949年にわが国初の音楽大学として認可を受けました。創立者の音楽教育にかける強い気持ちに共鳴した多くの人々の情熱の発露が学校設立へと結びついたことから、「〈和〉のこころ」が今日まで繋がる建学の精神となっています。私は、この精神は「個々人の自立」と表裏一体となって捉えられるべきであると考えています。他者を尊重し、協調しながらも、自立して問題提起や解決ができる音楽人を育成することで、これからも本学は社会に貢献していく所存です。

3年前の2017年に、“音楽の街”とも呼ばれる重厚感と近代性が調和し、優れた機能性とスタイリッシュなデザインを併せ持つ江古田新キャンパスが竣工し、6つのホールをはじめとする理想的な演奏・学修環境が整いました。また同年、学科の再編により「演奏学科」と「音楽総合学科」の2学科体制がスタートし、時代の要請に応えるカリキュラムの下、柔軟で幅広い学びが可能になりました。教育環境と教育体制というハード・ソフト両面が整備されたことで、豊かな音楽性を育むより深い学びが現在実現し、入学生も増加しております。

世の中は目まぐるしい変化を遂げていますが、いかに人々の生活環境が変わろうとも、音楽芸術に心を癒され、これに明日を生きる活力を見いだすという、人間が生来持つ本性は普遍であると、私は信じております。近年、武蔵野の卒業生は多方面で活躍し、その活躍のフィールドは大きく拡がっています。在学生諸君も、本学の教育方針「音楽芸術の研鑽」「人間形成」によって大作曲家の真理に少しでも近づき、在学中に培った多層的な知性としなやかな感性、そして豊かな人間性を活かして、それぞれの新たな舞台へ大きく羽ばたき輝き続けて欲しいと、心から願っています。我々教職員も、学生の意欲的な姿勢に必ず応え、全力でサポートしていきます。

私は、昨年創立90周年を迎えた本学が、100年、200年と存続するよう基盤を一層充実させることが、自らの使命と考えています。学生がそれぞれの未来を託して、数ある教育機関の中から武蔵野音楽大学を選択し学業に励み、大学生活を送っていることを常に心にとめ、充実した実のある議論を尽くして、変化すべきは変化しながら、期待に沿えるように誠心誠意尽力して参ります。最後になりますが、武蔵野音楽学園のさらなる発展に向けて、すべての皆様のより一層のご支援とご協力を賜わりますよう、重ねてお願い申し上げます。

好きで入った道をただ真っ直ぐに

桂文治（落語家）

今回ご登場いただくのは、古典落語正統派の大御所であり、江古田キャンパス近くに居を構えるご近所さんでもある11代目 桂文治師匠。「桂文治」という名跡は、江戸（東京）桂一門の止め名（最高位の名跡）であり、また東西落語界を含めた桂一門の宗家でもあります。落語とクラシック、日本の古典芸能と西洋発祥の芸術音楽――古典（クラシック）つながりということで、師匠にご自身のこと、先代の文治師匠との縁、そして落語と音楽についてお話を伺いました。なお、聞き役は落語をこよなく愛する本学の福井直昭学長です。

（2020年2月10日取材）

桂文治 *Bunji Katsura*

小学生の頃から落語家に憧れ、高校を卒業してすぐの1986年、桂文治に入門し「がた治」となる。1990年に二ツ目に昇進して、「平治」と改名。1999年に真打昇進を果たす。古典落語正統派として高い評価を受けており、NHK新人演芸大賞最優秀賞、北とぴあ大賞、林家彦六賞、文化庁芸術祭新人賞、彩の国落語大賞などを受賞。「らくだ」「禁酒番屋」などの酒が出てくる噺や、滑稽噺を得意とする。師匠にならって毎日を着物で過ごし、趣味は釣りに絵手紙に俳句と、日常から和づくしである。2012年9月 平治改め11代桂文治襲名。本名・岡方靖治、1967年、大分県生まれ。落語芸術協会理事。

噺家になりたい

―― 師匠は、いつ頃から落語家（噺家）になりたいと思うようになったのですか？

文治　最初のきっかけは、テレビの人形劇『孫悟空』というのがありまして、その声を担当していたのが、桂歌丸師匠、三遊亭小圓遊師匠だったんですね。そのときに初めて落語家という仕事があることを知りました。小学校の4年生か5年生のときですね。そこからテレビやラジオで落語を聞くようになり、自分も噺家になりたいなと思うようになったんです。カセットテープに録音して覚え、法事の席などで親類の大人相手に披露したものです。中学になってさらにのめり込み、あるとき学校の催しで『初天神』という子供が出てくる噺をやったら、なぜか受けちゃったんです。これが間違いのもと（笑）。ますますその気になって、学校の文化祭や町内の敬老会などでしゃべってました。

―― 先代の桂文治師匠に弟子入りしたいきさつは？

文治　中学時代、新聞社主催の落語会でたまたま師匠（10代目 桂文治）が私のふるさと、大分の田舎に来たんです。このチャンスを逃がすものかと、もじもじしながらも楽屋を訪ねて「弟子にしてください」と直談判しました。すると師匠は、「せめて高校くらいは出なさい。高校を出て、気が変わらなければもう一度来なさい」と。断るときの決まり文句だったようです。でも私はその言葉を真に受けてしまい、高校に入ってからも気持ちは変わらず、進路相談の三者面談で「私は就職します。噺家になります」と宣言。親の前で「噺家になる」と口にしたのはこのときが初めてで、ウチに帰ってから母親に叱られました。

―― そして二度目の弟子入り志願を

すると。

文治　東京の師匠の連絡先が分からず、苦肉の策でテレビの『笑点』にハガキを出したら、あっさり住所と電話番号を教えてくれたんです。当時はプライバシーや個人情報に関して、緩い時代だったんですね。早速連絡を取り、もう一度頼み込んで高校卒業と同時に上京して師匠の内弟子になることとなりました。

内弟子時代

―― 内弟子、つまり師匠のところに寝起きして、師匠の家の仕事を手伝いながら前座としての修業に励むようになるわけですね。

文治　両親と一緒に上京し、西武線ひばりヶ丘駅近くの師匠の家を訪ねました。そこで師匠が、私と私の親を前にしてこう言いました。「落語の世界は、白いものでも師匠が黒と言えば黒なんだよ。前座時代は親が死んでも駆けつけることはできないんだよ」と。両親はその日のうちに帰って行きました。池袋まで同行し、改札で見送って別れるとき、よくドラマのシーンなどであるように、階段で見えなくなるまでずっと両親の姿を目で追いました。後に二ツ目になった時、父から聞かされたのですが、母は山手線に乗るなり周りの人がびっくりするくらい大泣きしたそうです。里心がわくからと、それまで話さなかったのでしょうね。

―― 師匠と弟子の関係は、私たち音大の指導者と学生との関係に通じるものがあるのではないでしょうか。レッスンは1対1を基本とし、そこには一般の大学にはない特別で濃密な関係が築かれます。だからこそ、師匠もご存知の通り指導者にとっては大変なこともある分、喜びを感じるのだと思います。

文治　子供のときから好きだった師匠に弟子入りしたものの、前座の頃は失敗ばかりで、師匠から「早合点のがた治（当時の芸名）」と呼ばれていました。当時、兄弟弟子が7、8人いたのですが、私だけが師匠にひっぱたかれたことがあるんです。国立演芸場の前座に出る予定があったのに、上野で映画を観てすっぽかしちゃったんですね。最初は「国立に行った」とシラを切ったんですが、結局バレてしまい往復ビンタをくらいました。「俺は嘘つきが大嫌いなんだ」と、怒鳴られました。普段は温厚な師匠で、弟子に手を上げることなど滅多にないのですが…。兄弟子は、「ああ、こいつ破門だな」と思ったそうです（笑）。

▲普段でも着物姿の文治師匠

―― 幸いにも破門にはならずに済んだと。

文治　破門にはなりませんでしたが、そんなこんなで初めの頃はあまり気に入られていなかったようですね。内弟子時代は基本的に自由な時間はありませんから、唯一の楽しみがネタを増やすことなんです。師匠に教わったり、他の師匠のところに出稽古に行ったりして、ネタを50くらい覚えました。前座から二ツ目になり、勉強会を始めるようになった頃、NHKの新人演芸大賞を受賞しまして。インタビューで「誰に一番先に報告したいですか？」と聞かれ、「師匠です」と答えました。人づてに聞いたところ、「あいつは俺に最初に報告したいと言ってくれたんだよ」ととても喜んでくれたそうです。そのあたりくらいからですね、師匠が私

▲学園教職員の前で落語「源平盛衰記」を演じてくださった（2019年12月27日）

を認めてくれるようになったと実感できたのは。「こいつは下手な真打ちより、ずっと上手いんだ」なんて褒めてくれるまでになりました。「『子ほめ（落語の演目）』じゃなく、『弟子ほめ』だな」って（笑）。

師匠との別れ、由緒ある名跡の襲名

―― どんなに波乱万丈があっても、最後には互いに認め合う。師匠と弟子というのは、親子みたいですね。師匠が真打ちになったとき、先代はどれほど喜んだことでしょう。

文治　真打ちの披露公演を30日くらいやりましたが、師匠は高座と口上を連日務めてくれましたね。口上では、「クリクリ坊主の中学生のときに私のところに来て、高校を出るまで待てと追い返したんですが、その後、まさか本気で弟子入りしてくるとは」なんて入門当時のことを笑顔で話してくれました。

―― その先代が、急逝というようなかたちで亡くなります。

文治　師匠はもともと丈夫で、患っているところを見たことがありませんでした。ところが2004年の初席を10日間ほど普通に務めた後、1月14日が師匠の誕生日ですから一門が集まってお祝いをしたんです。そのとき妙に鼻が赤かったので、風邪でもひいて鼻をかみ過ぎたのかなと。その翌日、師匠が楽屋で寝ていたと聞いてびっくり。師匠は常日頃「楽屋で寝るような奴はドサだ、一流じゃない」と言っていましたから。よほど身体が辛かったんでしょうね。数日後に入院。そこで師匠の息子さんから初めて急性骨髄性白血病だと知らされました。真打ち以上の弟子が見舞ったんですが、たくさんの管につながれ、とても苦しそうにしている師匠の姿に衝撃を受けました。順番に師匠の手を握って語りかけました。私の番の直前に、別の兄弟子に自分が考えていたことを言われてしまい、落語家はネタが被ることを避けますから、何を話そうかと思案しているうちに突然涙がポロポロとこぼれてきて…。「俺、そんなに悪いの？」って、師匠が一番驚いたでしょうね（笑）。本人には病名を隠していましたから。病室を出て兄弟子に叱られました。「ダメだよ泣いちゃ、みんな我慢しているんだから」って。明くる日、師匠は亡くなりました。あれから一門では、「お前が師匠に引導を渡した。お前の涙がショックで亡くなった」と言われ続けています（笑）。噺家は悲しいことも笑いに替えてしまいますから。そして師匠の七回忌が終えた頃から襲名の話が出始め、2012年9月に11代目 桂文治を襲名させていただきました。

▲先代、10代目桂文治師匠（落語芸術協会提供）

落語と音楽

―― 落語も音楽も人前で披露するものです。そして基本的には昔作られ

たものを演じるという面でも同じです。また、落語では客席は明るく、音楽では客席は暗い。音楽に楽譜はあるが、落語には台本がない、といった違いもあります。落語と音楽の違いや共通点などについてお話しいただけますか。

文治　お客さんと一体化したと感じられることが、年に何回かあります。大拍手をしてくれる、身を乗り出して聞き入ってくれる。お客さん自身が長屋の住人になったような、噺の登場人物になったような、そんな噺家とお客さんが一体化して通じ合えた瞬間、それが一番嬉しいですね。音楽も同じではないでしょうか。噺家の誉れは、高座を降りるときにどれくらい拍手があるか。人気どうこうではなく、噺の中身、それが評価されれば盛大な送り手(拍手)をいただける、それが何よりの誉れなんです。

―― 音楽も落語も、やり直しの効かない生の芸術。生だからこその難しさや喜びがあると思いますが、いかがでしょう。

文治　生ということは、お客さんと直に糸がつながるということですね。もちろん最初は糸なんか張れていません。話し始めて面白いと思ってもらえれば、徐々に糸がつながってくる。そうなれば、糸を引っ張ったり、緩めたりして自分の世界に引き込める。演奏会にも、そうした糸のようなものはあるんじゃないでしょうか。その糸をおしまいまで切らせないよう演じる、演奏するのが共通点だと思います。自分自身の集中力が続かなかったり、台詞を間違えたり、時には携帯の着信音で邪魔されたりして糸が切れてしまう場合もありますね。

―― 音楽では間違えても演奏を続けるしかありませんが、落語の場合は？

文治　たとえ間違えても、お客さんに分からないようにうまくごまかすのがプロですね。堂々としていれば、意外と気づかれないものなんです(笑)。ただどうしても修復が効かないときは、素直に謝ります。あと、音楽的な言い方ですと、例えば古今亭志ん朝師匠などは非常に滑らかなしゃべりで、いわば名人芸の歌い調子。それに比べてウチの師匠は音痴なんです。つっかえつっかえで、けっして滑らかじゃない。でも、それが“味”となり、音楽的にはダメでも話芸としてはOKなんですね。不思議な世界です。

休まず稽古

―― 毎日の稽古、練習が大事という点では、落語も音楽も同じですね。

文治　春風亭柳昇師匠が、「音楽をやる人は、1日休むと1日下手になるそうだ。それは我々、噺家も同じこと」とよくおっしゃっていました。同じように、ウチの師匠は下手にならないために毎日寄席に出てしゃべっていると言っていましたね。寄席が稽古だと。とは言え、どんなに稽古しても間違うときは間違うんですがね。

―― 完璧な人はいない。間違いはある。でも、努力するのは当たり前で、その上での話ということですね。では、最後に音大生に向けてのメッセージをお願いします。

文治　好きで入った道、ただ真っ直ぐ行ってください。とにかく、やめてはいけません。やめれば、それまで。続けるということが一番大事なんですね。落語で言えば、年齢を重ねるうち、その歳に合った噺というものがあります。皆さんは、音楽が好きでしょう？　だったらできる限り努力しましょう。やめずに続けていれば、そのうち何とかなりますよ。私自身は、落語の他に何もありません。落語をやめたら、ただの変なおじさんでしかありません(笑)。そして人との縁を大切にしてください。私が師匠と出会い、弟子になったのも縁、師匠がダメな私を破門にしなかったのも縁、その縁つづきで今があります。皆さんも教えてくださる先生方を尊敬して、親だと思って接していただけたらと思います。

―― 私も学生を子供だと思って、日々指導しています。本日はどうもありがとうございました。

▲長男が師匠の落語教室に入室したことからお付き合いが始まったという福井直昭本学学長と桂文治師匠

武蔵野を支える人々
「ピアノ調律師」

武蔵野音楽学園には、学生・生徒が安心して勉強、レッスン、練習に打ち込める環境を実現するため、教職員の他に“縁の下の力持ち”的な役割を担い、働いてくださっている方々が大勢います。本シリーズでは、こうした皆さんに焦点を当て、円滑な学園運営が多くの人々の尽力の上に成り立っていることに、改めて思いを馳せたいと思います。第1回は、ピアノ調律師の方々です。

現在、本学園全体で約440台のピアノがあり、その調律をヤマハ銀座店とタナカピアノサービス（以下、タナカピアノ）の2社の調律師の方々にお願いしています。今回は、タナカピアノの皆さんにお集まりいただき、お話を伺いました。武蔵野とタナカピアノとのお付き合いは約70年の長きに渡り、江古田キャンパス内の事務所兼調律室にスタッフが常駐し、日々のメンテナンスや急な故障などに対応していただいています。（2020年2月21日取材）

調律師という仕事

―― 調律師になるには高校卒業後にピアノメーカーの養成機関や調律科のある専門学校で基本を学び、その後、実際の現場で経験を積むのが一般的だということですが、一人前になるにはどれくらいかかりますか？

土岐勝信　一通りのことを覚えるのに、学校を出てから10年くらいはかかるでしょうね。

―― 皆さんは、どうして調律師になろうと思われたのですか？

杉本　高校3年のとき、趣味程度に習っていたピアノの教室で、弾いたピアノの感じがいつもと違ったんです。先生から調律したことを聞き、初めて調律という仕事の存在が身近なものとなりました。知り合いの調律師の方に色々と相談したり、学校を見学したりしているうちに、トントン拍子に調律師になる道に進んでいました。

汲田　私もピアノを習っており、自宅に来た調律師さんの仕事ぶりを見ているうちに興味が湧き、面白そうだなと思ったのがきっかけですね。

土岐隆仁　父（勝信さん）の影響ですね。小さな頃、武蔵野の旧キャンパス時代の事務所をしばしば訪ねて、そこで父を始め皆が仕事をしている姿を眺めていました。その流れで自然と自分もなりたいと思うようになっていました。

▲タナカピアノサービスの皆さん。左から土岐隆仁社長、土岐勝信取締相談役、汲田俊之さん、杉本悠さん

調律・整調・整音・修理

―― 本学園にある全てのピアノに加え、楽器ミュージアムのピアノも担当されているそうですね。

土岐隆仁　各ホールと練習室、レッスン室のピアノは定期的にメンテナンスし、ミュージアムのピアノは必要に応じてその都度調律しています。

―― 調律の具体的な作業内容は？また調律にかかる時間は？

土岐隆仁　作業手順を大きく分けると、音を合わせる「調律」、メカニックの部分を整える「整調」、そして音色を変える「整音」の3つ。あとは、あまり多くはありませんが、切れた弦を直すなどの「修理」があります。調律にかかる時間は、ピアノの状態にもよりますが、およそ1台につき1時間半から2時間くらいですね。

―― 調律による音づくりで、気をつけていることはありますか？

土岐隆仁　武蔵野のピアノを診ている中で我々は、ある程度統一した基準にすることを目指しています。1台1台個性の異なるピアノは、場所によっても音づくりは違ってきます。例えば広いホールと狭い練習室では残響時間などが異なりますので、当然そうした違いに配慮し、その場所に相応しい調律が必要になります。

―― ピアニストからは、調律以外にも変わったリクエストがあるとか？

土岐勝信　演奏会で弾くときに鍵盤の蓋を取り外して欲しい、という先生がいましたね。

▲繊細な感覚が要求される調律作業

▲ピアノ調律師の七つ道具!?　様々な工具を駆使して調律作業にあたる。必要なら工具自体を手作りすることも

汲田　キャスターの向きを気にする先生もいました。向きによってピアノが安定したり等、響きに影響はしてくるのですが、良くご存知だなと感じました。

杉本　後ろをほんの少し持ち上げると、鍵盤の傾斜が水平に近づいて弾きやすくなるとおっしゃる方もいました。

仕事のやり甲斐

―― 実際に調律の作業をする上で、一番大変なことは何でしょう。

杉本　決められた時間の中で作業が終了するよう、段取りするのに気を使います。

汲田　「1本うなり」と言って、弦がその1本だけでうなりを出してしまうことがあり、それを合わせるのには苦労します。またホールなどであることですが、調律中に温度・湿度が変わると全体のバランスに影響しますので、その点も大変ですね。

―― 調律の仕事の面白さ、やり甲斐をお聞かせください。

土岐隆仁　お客様の希望に沿えた、また自分の中で満足する仕事ができた、と納得できたときは素直に嬉しいですね。ただ、ピアノは生物のようにすぐ変化するもの。ここで終了とはならない部分が、面白いと言えば面白いし、やり甲斐にも通じます。

汲田　ピアノごとに持っている潜在能力を、調律・整調・整音の作業を通し、色々と試行錯誤しながら引き出していくことに面白さを感じます。

杉本　上手く作業が出来たなと思っても、気に入っていただけなかったり、その逆だったり。弾く方と調律する私で意見が異なるケースがあり、色々な見方が出来るという点でこの世界の奥深さを感じますね。

―― 皆さんが調律したピアノを弾く武蔵野の学生にメッセージをお願いします。

土岐勝信　右ペダル、左ペダルを踏む意味とか、ピアノのアクションの構造を大まかにでも知った上で弾いていただければ、演奏にも良い影響が出るのではないでしょうか。

土岐隆仁　学生さんと直接コミュニケーションをとることは少ないのですが、リクエストがあれば何なりと言ってください。様々な方法で対応させていただきます。

杉本　どんどん意見を言っていただき、お互いが成長できるような関係性を築けたらいいなと思いますね。

汲田　私たちは、何より学生の皆さんが気持ち良く弾いていただけるように調律しています。そのためにも何かあれば私どもに直接声を掛けていただければと思います。

▲江古田キャンパスにあるタナカピアノサービスの事務所兼調律室。巻線機を使い、切れた弦と同じ太さの弦を調達する

▲3月27日、本学に納入されるスタインウェイのフルコンサートグランドピアノ

映画とスタインウェイのフルコン

―― 2018年、ピアノ調律師の世界を描いた映画『羊と鋼の森』が公開されました。この映画の撮影に武蔵野のバッハザールが使われ、タナカピアノの皆さんが所属する日本ピアノ調律師協会も全面協力したとのこと。映画を観た感想は？

土岐隆仁　主人公の駆け出しの頃の描写が、かつての自分自身の姿と重なり合って凄く共感するところがありました。

杉本　調律師の仕事が分かりやすく描かれていて、とても嬉しかったですね。ただ、主人公が先輩の代わりにお客さんの所に行き、懸命に調律した挙げ句、結局上手くいかないというシーンがあります。主人公の気持ちが直に伝わってきて、この場面は見ていて苦しくなりました(笑)。

―― 最後になりますが、3月27日に武蔵野では10台目となるスタインウェイのフルコンサートグランドピアノが納入されます。調律師としてのご感想は？

一同　楽しみですね。

杉本　フルコンの9台目が武蔵野に来た年に、ちょうど私もタナカピアノに入社しました。あれから時が経ち、新しいフルコンと対峙したときに自分自身がどう変わったと実感できるか、今からワクワクしています。

―― 本日はありがとうございました。

卒業生インタビュー

武蔵野卒業生としての誇りを胸に

● 脇山亜希子 ●

寺田倉庫株式会社 執行役員／公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会理事

武蔵野で声楽を専攻し、卒業後はイタリアに音楽留学。その後、語学を活かし、外資系企業に就職。マーケティング＆PRとして研鑽を積み、仕事の面白さ、やり甲斐に目覚めたという脇山亜希子さん。現在は、倉庫事業および倉庫空間を活用した多彩な事業を展開する寺田倉庫の執行役員として活躍中。音楽で培ったもの、武蔵野で学んだことが、現在までのキャリア形成に役立っているという脇山さんにお話を伺いました。
（2020年1月20日取材）

脇山亜希子 *Akiko Wakiyama*

1976年、東京都出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。古賀和子氏に師事。23歳でフィレンツェに音楽留学し、教会音楽、宗教曲を学ぶ。25歳で帰国し、世界第３位の外資系クルーズオペレーターに就職。営業職を経てマーケティング＆PRの研鑽を積み、10年にわたり日本市場におけるクルーズ認知度向上とブランディングに取り組む。35歳でKDDIグループの広告会社に転職。その後、ヘッドハントを受け39歳で寺田倉庫に戦略広報担当として入社。41歳で執行役員に。趣味はクラシック鑑賞と料理。時間ができた週末は友人を招きホームパーティで料理をふるまう。

留学から一般企業へ

―― まず、脇山さんの音楽経歴をお聞かせください。

脇山　音楽好きで合唱をやっていた父の影響で、3歳からピアノ、小学校3年生から合唱を習い始めました。小さな頃から耳でコピーしたCMやアニメの曲などをピアノで再現するのが得意で、絶対音感もあった為、両親の期待を受け、音大進学を決めました。都内の音楽高校で師事していた先生より、武蔵野には繊細で透き通るような声質の人が多いと聞き、夏期講習に参加。学内の雰囲気と緑に囲まれた学び舎にも魅了され、迷わず武蔵野を選びました。

―― 武蔵野在学中はプロを目指していたのでしょうか？

脇山　ヴォーカルアンサンブルとオペラ研究部に所属し、教職もとっており、練習に勉強に励む日々でした。その頃は、明確に将来像を描いてはおらず、好きな宗教曲を教会で歌うような仕事ができたらいいなという漠然とした夢があったくらい。イタリアのフィレンツェに留学したのも本場の宗教曲を勉強するためでした。

―― 留学後、帰国して一般企業に就職されますが、その経緯をお聞かせください。

脇山　もともと、武蔵野の恩師であった古賀和子先生が「25歳までは、自分のやりたい事を自由にさせて欲しい」と、ご両親を説得したエピソードが強く印象に残っていました。残された時間を有意義に過ごす為、イタリアでは、音楽院、大学、プラダの販売員を行き来し、３足のわらじを履いていました。クラシックの本場での音楽に浸る日々も、世界中から訪れるお客様をもてなす仕事も、どちらも魅力的。武蔵野を卒業してからは、人生の選択肢がどんどん増えるばかりでした。そんな時、イタリア留学の第一目標としていた「大聖堂でのソロ」を成し遂げ、自分なりにゴールテープを切ったような達成感を感じたのです。そして、無性に新しい事に挑戦したいという意欲がわいてきました。その後、一時帰国した際、以前ドイツ人の友人と乗船した外資系クルーズ会社が日本に進出するためにスタッフ募集していることを知り、このタイミングを「運命」と捉え、就職を決めました。

―― 25歳を前にして別の道に進もうと決めたわけですね。

脇山　はい、その決断を両親に告げると、やはりビックリしていました。特に父が(笑)。ですが、私は武蔵野音楽大学で学んだことを一切無駄にするつもりはない、学んだことを今後に活かして社会に出ていくからと告げると、二人は応援してくれたのです。

▲武蔵野音大時代。ヴォーカルアンサンブルの仲間たちとバーベキューを楽しむ

▲イタリア留学時代。
フィレンツェのドゥオモの前にて

広報のやり甲斐

―― 最初から広報を担当したのでしょうか？

脇山　いえ、営業事務からスタートし、営業、マーケティングを経てPR担当になりました。3年後には管理職に昇格し、東南アジア、ヨーロッパ、北米を飛び回る日々。10年ほど勤めましたが、ガラケーからスマートフォンの時代に差し掛かった頃、Web広告を学び、デジタル広報の研鑽を積む為に、スマートフォン広告を手掛けるKDDIのグループ会社に転職し、海外戦略マーケティング部と広報部のリーダーを兼務しました。

――そして、現在の寺田倉庫からお誘いがあったと。

脇山　ある日、勤務先に封筒が届きました。開封すると、果たし状(？)のような蛇腹和紙が。流暢な墨文字で「これまでの海外PRの経験を高く評価している。是非一度会いたい」とありました。会社名をウェブで検索しても、なかなか実体が見えない。好奇心に背中を押され見学に行ったんです。そこには、想像を超えた世界が広がっていました。ワインセラーひとつとっても、醸造所の地下セラー並の環境が実現しており、圧倒されました。なぜこのように優れた施設が世間に知られていないのだろう、勿体ない…。それがきっかけで転職を決断しました。

―― 脇山さんが入社してから、寺田倉庫のメディア露出が飛躍的に伸びたそうですね。

脇山　かつて倉庫業、トランクルーム事業を中心としていた寺田倉庫ですが、私が入社した当時は、ワイン、アート、フィルムなど、時を経る事で価値を高めるものの保存保管業や、倉庫空間をイベントスペース、ミュージアムとして活用するといった、倉庫の固定概念を覆すような大改革を断行している真っ最中でした。広報組織を育成し、チーム一丸となってプレスリリース、SNSマーケティング、Web広告に取り組んだ結果、大きな成果をおさめる事ができました。

―― 広報という仕事の面白さ、やり甲斐は何でしょう？

脇山　「学び」の多い職種です。通常業務はひたすら雑務、調整の連続。しかしながら、広報部門は経営中枢に位置していることから、経営層や優秀な社員と接点を持つ機会が多く、会社の経営についても間近で学ぶ機会に恵まれています。社外においても、新聞社の編集長クラスの方との情報交換は実りが多く、また、一度構築したマスコミとの関係性は一生もの。どのような業種に転職しても活かす事ができると思います。社外においても、2年前に、公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会の理事に就任し、次の時代を担う広報やPRパーソン育成にも積極的に取り組んでいます。

不思議な縁

―― 寺田倉庫のグループ会社が開発・販売をしている電子楽譜「GVIDO（グイド）」を通じて、“音楽”と関わる出来事もあったそうですね。

脇山　はい。私達は、指揮者のリッカルド・ムーティ氏、ピアニストのラン・ラン氏といった世界的人気を誇る方々と対面し、GVIDOをご紹介してきました。記憶に鮮やかなのは、2018年末、ドイツ・グラモフォンの創立120周年記念のガラ・コンサートへの協賛。指揮は小澤征爾氏、演奏はサイトウ・キネン・オーケストラ、会場はサントリーホールでした。小澤氏がタクトを振った瞬間、音楽への情熱がほとばしり、涙が止まらず、隣に座っていた記者さんがビックリされていました。やはり自分は音楽が大好きなのだと実感した出来事でした。また、寺田倉庫は昨年末に公開された映画『蜜蜂と遠雷』にも協賛。劇中、主役の一人である森崎ウィンさん演じるマサルがGVIDOを使用しています。

――『蜜蜂と遠雷』は本学のバッハザールが撮影に使われましたし、脇山さんと武蔵野が再会した感じですね。

脇山　それだけではありません。当社の社長と武蔵野の福井直昭学長は、小学校時代からの同級生で、将棋のライバルだったとか(笑)。さらに、近々、武蔵野にスタインウェイのフルコンサートグランドピアノが納品されるとのことですが、スタインウェイは天王洲にある寺田倉庫に国内初となるショールームを備えた直営店を構えています。色々な接点があって、不思議な縁を感じます。

―― 多くの経験をされてきた脇山さんですが、これまでのキャリア形成において音楽を学んできたことがどのように役立っていると思いますか。

脇山　1つ目はリサーチ力。音大生は課題曲を与えられると、まずはその曲と向き合うところから始めますよね。作曲者、時代背景、曲の構造、歌詞や楽語を理解した上で、自分がどう演奏したいかを模索する。この一連の分析作業は、社会に出てからも強い武器になります。2つ目はコミュニケーション力。前述の通り、広報は社内外の経営層との接点が多いの

▲電子楽譜GVIDOを贈呈された
指揮者・ピアニストのチョン・ミョンフン氏

ですが、20代の頃から「肝が据わっている、物怖じしない」と言われました。音大生は幼い頃から目上の方と接する機会が多く、礼儀作法だけでなく、人との距離の取り方を無意識に体得しているからだと思います。3つ目はメンタルの強さ。実技試験はたった数分間に、これまで重ねた努力を反映させないといけない。一般的な大学では体験できない事です。気が付けば、精神力や集中力が鍛えられ、面接やプレゼンテーションなど本番での勝負強さにつながっていると思われます。

自信を持ってチャレンジ

── 武蔵野時代を振り返って、一番思い出すのは？

脇山　つくづく競争社会だったなあと思います。普段は和気あいあいとしていても、試験では皆がライバル。当時の友人とは頻繁に集まって食事をしていますが、社会に出てからの方が仲良しかも（笑）。旧キャンパスで思い出すのは、図書室の前の学生ホール。時間が空いた時にふらりと立ち寄ると誰かしら友達がいて、そこで話し込んだり、一緒に練習に出掛けたり、お気に入りの場所でした。

── 武蔵野で学ぶ後輩達にメッセージをお願いします。

脇山　夢中になれるものを見つけ、自分という花が「開花」できる環境に身を置く事は、長い人生においてとても大切です。法学部の学生がみな弁護士になるわけではないように、音楽との関わり方は自分次第。私も然りですが、何かをきっかけに別の道に進む人もいれば、一般企業を経験した後で、音楽業界に返り咲いた友人もいます。武蔵野の少人数かつ濃密なカリキュラムは伊達ではありません。自分の能力と可能性を信じて、卒業後は様々なことに挑戦していただきたいですね。

── 最後に脇山さんの今後の抱負をお聞かせください。

脇山　社会に出てからの20年間を振り返ると、できるだけ戦略的であり、かつ効率性を重視して生きてきた気がしています。40代を迎えた今は、少し後ろを振り返りながら、20代、30代の迷っている人が次の行動を起こせるようになるヒントやアドバイスを提供できる場をつくっていけたら、と考えています。

── 本日はありがとうございました。

脇山　寺田倉庫は今年70周年を迎えます。拠点である天王洲アイルを舞台に、これまで以上にアートや音楽イベントを展開してまいりますので、皆さん、ぜひ遊びにいらしてください。

音楽の万華鏡 49

記念年の音楽家タルティーニ

今年没後250年を迎えたイタリアの音楽家ジュゼッペ・タルティーニ（1692-1770）は、図版の銅版画の台座が示すように、ヴァイオリン奏者、作曲家、そして音楽理論家として活躍した。アドリア海に面したイストリア半島ピラーノに生まれ、故郷で修道士への教育を受け、1708年にパドヴァ大学法学部に入学。その後アッシジの修道院でヴァイオリンと作曲の修業を積み、各地で演奏活動を展開、1721年にはパドヴァの聖アントニオ大聖堂首席ヴァイオリン奏者に就任した。

1727/28年頃にはヴァイオリン教授の学校を設立、生徒たちはヨーロッパ中から集まり、ナルディーニやナウマン等の優れた弟子が輩出した。ボローニャのマルティーニ神父との生涯にわたる交遊もこの頃始まる。さらに、コレッリ（Corelli）の作品を手本として以前から書いていたヴァイオリン協奏曲や独奏ソナタが出版されると、タルティーニの名声は次第に高まっていったが、彼はパドヴァの大聖堂に最晩年までとどまった。1740年頃には音楽理論家F.A.ヴァロッティ、天文学者G.カルリをはじめとするパドヴァの知識人仲間との交流を通じて、40年代の自然模倣の美学に強くひかれ、タルティーニの音楽は純粋に抽象的な構造から聴き手の感情に訴えかける表現的言語へと変わっていく。

タルティーニは次第に演奏や作曲よりも理論的研究に没頭、ルネサンスの音楽理論家ツァルリーノ（Zarlino）やギリシャの哲学者プラトン（Platon）を研究、『音楽論』では結合音などの彼が経験で得た観察を物理学や古典的和声理論から説明しようとした。1754年に出版されたこの著作は、マルティーニ神父などには賛同を得られなかったが、彼が没した直後の1771年にパリで出版された『音楽装飾法』は、ヨーロッパ全体に強い影響力を持った。タルティーニが教授活動を通じてかなり以前に編み出し、弟子たちの書き写しが広く出回っていたことは、レオポルド・モーツァルトが『ヴァイオリン奏法』（1756）の中で譜例と共に取り入れていることから明らかである。そして器楽カンタービレは息子ヴォルフガングの最も際立った特徴の一つとなった。

▲ カルロ・カルチノットによる銅版画（1761年）

寺本まり子（本学音楽学特任教授）

ベートーヴェンホール 日本建築防災協会理事長賞・耐震改修優秀建築賞を受賞

2017年の新校舎群竣工に併せて㈱大林組が主となって大改修を行った本学ベートーヴェンホール（ホール棟・ロビー棟）が、一般財団法人日本建築防災協会主催の「2019年度耐震改修優秀建築・貢献者表彰」において日本建築防災協会理事長賞、ならびに耐震改修優秀建築賞を受賞し、2月18日に表彰式が行われました。

▲表彰を受ける本学 福井直昭学長と（株）大林組 岸浩行氏

特に、日本建築防災協会理事長賞は、過去に阪神甲子園球場、通天閣、ホテルニューオータニ ザ・メイン、新宿三井ビルディング等が受賞した名誉ある賞です。耐震性をさらに高めるために耐震壁の増設による補強が追加されたこと、優れた音響効果を保持するために天井既存部分を残置しつつ地震時の落下を防止するというユニークな耐震補強策が講じられたことなどに加え、大学キャンパスの大規模再整備にあたり、改修した既存の音楽ホールを中心に据えてキャンパス全体計画が成されている点も高く評価され、受賞に至りました。

▲▶授与された日本建築防災協会理事長賞・耐震改修優秀建築賞の賞状と盾

今後も、本学ならびに日本のコンサートホールの歴史を象徴する存在としての役割を継続し、コンサート・式典・試験等で使用されていきます。

外国人教授紹介（2020年度前期）

ケマル・ゲキチ
Kemal Gekić（ピアノ／クロアチア）

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。1981年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。1985年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て「最優秀ソナタ特別賞」受賞。その後、世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。

ロバート・ダヴィドヴィッチ
Robert Davidovici
（ヴァイオリン／アメリカ）

ルーマニア生まれ。ジュリアード音楽院にてガラミアンに師事。カーネギーホール国際アメリカ音楽コンクール第1位受賞。以後幅広いレパートリーで世界的に演奏活動を行っている。大阪フィルハーモニー交響楽団、バンクーバー交響楽団等のコンサートマスターも務めた。フロリダ国際大学教授。

クリスティアン＝フリードリヒ・ダルマン
Christian-Friedrich Dallmann（ホルン／ドイツ）

ハンス・アイスラー音楽大学にてクルト・パルムのもとで研鑽を積んだ後、1978年にマルクノイキルヒェン国際音楽コンクールホルン部門で第1位受賞。同年ベルリン交響楽団（現ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団）のソロホルン奏者となり、以後22年以上首席奏者を務めた。またヘルムート・リリング音楽監督のもとシュトゥットガルト国際バッハアカデミーに招かれ、数多くのプロジェクトでソロホルンを担当。さらに古楽器による演奏活動も、ベルリン古楽アカデミーのメンバーとして行い、国内外への多くの演奏旅行とCDの録音を行った。ハンス・アイスラー音楽大学、デトモルト音楽大学を経て、現在はベルリン芸術大学教授として後進の指導にも当たり、優れたホルン奏者を多数輩出している。

リチャード・メイン
Richard Mayne（ウィンドアンサンブル指揮／アメリカ）

アリゾナ州立大学にて音楽教育（トロンボーン専攻）の学士と修士の学位を取得。その後、オハイオ州立大学にて博士号を取得し、卒業後、アリゾナ州にて高校教員として勤務し、その間、アリゾナ・バンド＆オーケストラ協会の会長を務めたほか、テンペ・シンフォニー・オーケストラのトロンボーン奏者としても活躍した。長年にわたり、コロラド州のノーザン・コロラド大学音楽学部で教授として、シンフォニックバンド、マーチングバンドのディレクターを務め、指揮、音楽教育、副科器楽などの各種音楽コースに於いて教鞭を執っていた。2013年にコロラド・バンドマスターズの受賞者として殿堂入りを果たした。現在は、全米吹奏楽指導者協会（ABA）会員、全米吹奏楽協会のウィリアム・レヴェリ作曲コンテスト選考委員を務めるほか、フォート・コリンズ・ウィンド・シンフォニーにて音楽監督、指揮を担当している。ノーザン・コロラド大学名誉教授。

MUSASHINO 掲示板

令和元年度クロイツァー賞受賞者

わが国のピアノ音楽発展に寄与した、レオニード・クロイツァー教授の名を冠した「クロイツァー賞」。教授とゆかりが深かった東京藝術大学、国立音楽大学、武蔵野音楽大学の大学院修了生から、毎年特に優れた成績を修めた学生が選出されます。令和元年度、本学からは大学院音楽研究科修士課程器楽専攻ヴィルトゥオーゾコース修了の古市明里さんが選ばれました。

受賞記念演奏会は、令和2年6月24日19:00、東京文化会館小ホールで開催されます。

武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。　学校法人　武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、令和元年10月8日から12月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】青木国子様　秋山江美様　浅野京子様　阿部和子様(昭25卒)　阿部和子様(昭34卒)　池田順子様　石井百代様　石川晴子様　石丸佳代子様　井上 聰様　岩瀬泰子様　岩田惠子様　打越孝裕様　内田恵子様　宇都宮 攻様　浦川道子様　枝 淨子様　及川芳子様　大久保優美子様　太田春子様　太田みはる様　大谷敦子様　岡戸晃男様　小川靖奏子様　小澤幸子様　越智啓文様　小野久実子様　小野瀬晃一様　筧 美代子様　梶川登美子様　金子泰三様　加納マリ様　亀崎光子様　河﨑光子様　川澄朋子様　久米泰好様　古賀真理子様　小坂憲子様　五反美千代様　小松孝子様　斉田好男様　斎藤叡子様　坂爪三千代様　佐々木雄三様　佐々木由美様　佐竹典子様　佐藤三津子様　重松晃子様　清水正樹様　鈴木えり子様　鈴木しおり様　妹尾偉代様　多賀裕子様　髙橋寿奈様　髙橋雅子様　髙橋美穂子様　高橋泰子様　高橋耀子様　高本早苗様　竹中晶子様　立野了子様　巽 蔦枝様　田中明子様　田中孝子様　多和田悠子様　坪井由起子様　寺田浩一様　徳王雅美様　徳田ゆき様　虎谷房江様　長島桂恵子様　中島俊子様　長田恵昭様　中村俊輔様　西田 豊様　初田茂子様　浜崎妙子様　林 郁野様　林 茂子様　林 朋子様　林 秀樹様　廣瀬惠子様　福田芳尚様　藤澤貴子様　藤澤まさ江様　藤田良子様　舩橋信子様　北條亮子様　本德喜美恵様　本間敬二様　増田英代様　松井春枝様　松浦靖子様　松浦良治様　松﨑登代子様　馬渡芳子様　水上瑞枝様　水上由貴様　光田明子様　宮本毅枝様　椋尾凱郎様　宗本良子様　元井美和様　森岡 翠様　森谷緋紗子様　守屋雅惠様　矢島 勝様　安間咲葵子様　山崎ひろ子様　山本玉枝様　山本千恵子様　吉井 昌様　吉川絹子様　吉澤美智子様　吉原ちより様　渡邉尋子様

【在学生・同ご父母】大石哲也様　三村藤明様　室越 俊様　矢敷達朗様

【役員・教職員・一般・他】岩津勢伊子様　宇留野美知子様　金子和広様　川村ゆみ様　古池 好様　甲賀多重子様　小門敬子様　後藤恭子様　小林秀夫様　重松 聡様　須田 寛様　田口宗明様　谷 友博様　戸田史郎様　戸部 豊様　野崎勇喜夫様　日髙正枝様　堀内康雄様　三村隆文様　持田隼人様　八木原宗夫様　吉岡千賀子様　渡邉規久雄様　株式会社栄光社様

（他に匿名を希望される方47名）

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●第30回日本製鉄音楽賞　フレッシュアーティスト賞受賞
大西宇宙（平成20年大学声楽専攻卒業、本大学院修了）

●埼玉県「令和元年度下總皖一音楽賞」受賞
音楽文化貢献部門　松本美和子（昭和39年大学声楽専攻卒業、本専攻科修了、本学特任教授）
音楽文化発信部門　森谷真理（平成12年大学声楽専攻卒業、本大学院修了）

●第21回エウテルペ国際音楽コンクール（イタリア）　ピアノ部門　カテゴリーG　第2位入賞　野村なつき（平成27年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了）

●第21回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA　アジア大会　大学生部門　金賞受賞　平林咲子（平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年）、高校生部門　金賞受賞　市之瀬梨子（附属高校3年ピアノ専攻）、●第20回北関東ピアノコンクール　大学生Sの部　第1位入賞、全部門最優秀賞、朝日新聞社賞受賞　後藤光希（大学4年ピアノ専攻）、一般Sの部　第2位入賞（1位なし）　安田茉生（平成31年大学ピアノ専攻卒業、本大学院1年）、●第26回JBA埼玉県部会中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト　本選　金賞、さいたま市教育委員会教育長賞受賞　箕輪里香（附属高校1年トランペット専攻）、●第10回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 高校生部門　金賞受賞　佐藤千花（附属高校2年ピアノ専攻）、一般A部門　銀賞受賞　秋山美穂子（平成元年大学ピアノ専攻卒業）、●第13回ベーテン音楽コンクール ピアノ自由曲コース　一般AII部門、一般CI部門　第1位入賞　秋山美穂子（平成元年大学ピアノ専攻卒業）　※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、2020年度も教員免許状更新講習を開講します（現在認定申請中）。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域6時間と選択必修領域6時間、そして選択領域18時間、合計30時間を開講します。

領域	期間	会場
①必修領域（6時間）	7/23・24の2日間	江古田キャンパス
②選択必修領域（6時間）		
③選択領域（6時間×3日間）	7/25～27の3日間	

夏期講習会のお知らせ

2020年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会（音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習）を、下記のとおり実施します。

講習会名	期間	会場
大学受験講習会	8/ 1～8/ 4	江古田キャンパス
高校音楽科受験講習会	8/ 1～8/ 3	
社会人のための夏期研修講座	7/28～7/30	
免許法認定講習 ※教員免許状更新講習とは異なります	7/23～8/ 3	

要項の請求について	各講習会要項は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方は、本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室へお電話にてご請求ください。（TEL.03-3992-1125）　本学ウェブサイトhttp://www.musashino-music.ac.jp/ 「教員免許状更新講習のご案内」および「夏期講習会要項」は5月発行の予定です。

2020年度 4月～7月　演奏会のお知らせ

大学院修士課程在学生によるコンサート　4月17日㊎ 18：30 ブラームスホール（江古田）　無料〈全席自由・入場整理券不要〉

音楽学部新人演奏会 ～令和元年度卒業生による～　4月20日㊊ 19：00 ヤマハホール　¥1,500〈全席自由〉

東京都交響楽団　第903回定期演奏会　【三善 晃「反戦三部作」】（本学合唱団出演）
5月8日㊎ 19：00 東京文化会館　S席¥7,000／A席¥6,000／B席¥5,000／C席¥4,000／Ex席¥3,000
指揮＝山田和樹　曲目＝三善 晃：レクイエム（1971）、詩篇（1979）、響紋（1984）
合唱＝東京混声合唱団、武蔵野音楽大学合唱団　児童合唱＝東京少年少女合唱隊
お問合せ＝都響ガイド：TEL.0570-056-057

大学院修士課程新人演奏会 ～令和元年度修了生による～　5月15日㊎ 18：30 ブラームスホール（江古田）　¥1,500〈全席自由〉

ロバート・ダヴィドヴィッチ　ヴァイオリン・リサイタル
ピアノ＝岡崎悦子　5月21日㊍ 18：30 ブラームスホール（江古田）　¥1,000〈全席自由〉
曲目＝ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第8番 ト長調、第9番 イ長調〈クロイツェル〉 他

ニュー・ストリーム・コンサート39 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～
6月18日㊍ 18：30 ブラームスホール（江古田）　無料〈全席自由・要入場整理券〉
出演＝入岡美澪（Pf.）、新城智史（Fl.）、菊地章太郎（Cl.）、大野 凛（Pf.）、佐藤和鷹（Ob.）、高見澤桃香（Pf.）

ニュー・ストリーム・コンサート40 ～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～
6月19日㊎ 18：30 ブラームスホール（江古田）　無料〈全席自由・要入場整理券〉
出演＝清水あかり（Pf.）、松本瑠海（Sop.）、飯島七海（Cl.）、髙橋七海（Pf.）、中島美紅（Sax.）、石田詩葉（Pf.）

ケマル・ゲキチ　ピアノ・リサイタル　7月2日㊍ 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）　¥1,000〈全席自由〉
曲目＝ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調〈月光〉、第21番 ハ長調〈ワルトシュタイン〉、ショパン：ポロネーズ 第7番 変イ長調〈幻想〉 他

ウィンドアンサンブル演奏会　7月5日㊐ 14：00 けんしん郡山文化センター 大ホール（福島県）
指揮＝リチャード・メイン　一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席自由〉
曲目＝2020年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より 他　7月9日㊍ 18：30 東京オペラシティ コンサートホール　¥1,500〈全席指定〉

※上記の他、学生による演奏会等、多数開催。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは本学ウェブサイトでも予約ができます。
●お問合せ　武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120
●武蔵野音楽大学ウェブサイト http://www.musashino-music.ac.jp/

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために
演奏会の開催が延期または中止となる場合がありますので
大学のウェブサイトでご確認ください。

中高生のためのステップ・アップ・プログラム

初心者の方から上級者の方まで、楽器や歌が上手くなりたい！という中高生の皆さん、音楽大学という理想的な音楽環境で、一流講師陣によるレッスンに参加し、スキルアップに役立ててください。

種別	開催日	会場
ピアノ・声楽	5月17日㊐・11月 1日㊐	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
管打弦楽器	5月31日㊐・ 9月27日㊐	

※「ピアノ」と「弦楽器」は小学生の参加も可能です。詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター　TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

2020年度 オープンキャンパス・学校説明会＆体験レッスン

《オープンキャンパス》《学校説明会＆体験レッスン》を下記の日程で開催します。ぜひご参加ください。

●オープンキャンパス［会場：武蔵野音楽大学 江古田キャンパス］

開催日	主な実施内容
6月21日㊐	大学案内、体験レッスン、レッスン公開、体験授業 等
8月30日㊐	大学案内、体験レッスン、キャンパスツアー、体験授業 等

※オープンキャンパスでは附属高等学校の説明会も実施します。
※事前申込みが必要です。詳細はウェブサイトをご覧ください。
※9月以降も≪オープンキャンパス≫≪学校説明会&体験レッスン≫を開催します。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター　TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

●学校説明会＆体験レッスン

開催日	開催地	会場
5月24日㊐	福島県郡山市	ヤマハミュージック 郡山店
5月30日㊏	福岡県福岡市	アクロス福岡 イベントホール
6月 6日㊏	長野県松本市	ミュージックプラザ オグチ 松本センター
6月 7日㊐	長野県長野市	㈱ヒオキ楽器 ユニスタイル長野東（ヤマハ音楽教室）
6月14日㊐	山梨県甲府市	内藤楽器 本店
6月21日㊐	宮城県仙台市	カワイ仙台
6月28日㊐	北海道札幌市	六花亭札幌本店 きたこぶしホール
7月 5日㊐	新潟県新潟市	ミュージックアベニュー新潟（ヤマハ）
7月11日㊏	静岡県浜松市	アクトシティ浜松 研修交流センター
7月12日㊐	愛知県名古屋市	日響楽器 池下店
7月12日㊐	香川県高松市	サンポートホール高松 第1小ホール

編集後記

武蔵野の学生に向け、桂文治師匠は「（音楽を）続けることが一番大事」、卒業生の脇山亜希子さんは「様々なことに挑戦して欲しい」とメッセージをくださいました。一見真逆なようですが、「自分が探し求め、その結果自分で決めた道に邁進すべし」という意味では同じではないでしょうか。新年度が始まりました。いま一度自身の今後に思いを馳せ、目標に向かって日々チャレンジする気概を持ちたいものです（編）。

武蔵野音楽大学楽器ミュージアムだより――

グランドピアノ C. グラーフ作　1845年　ウィーン　奥行き223cm

コンラート・グラーフは、19世紀前半のウィーンを代表するピアノメーカーで、ウィーン王室御用達の称号のもと、生涯に約3,000台に上るピアノを生産した。一代のみの経営であったが、当時の多くの音楽家がそのピアノを好み、特に著名な作曲家がグラーフのピアノを使用した。

ベートーヴェンは晩年ほとんど耳が聞こえなくなったが、グラーフはこの大作曲家のために弦数を増やし音量を増大させたピアノを造っている。また、長年の法廷闘争の末、ようやく結婚が認められたシューマン夫妻に、グラーフは1840年、紫檀製のグランドピアノを贈った。このピアノはローベルトの仕事部屋に置かれ、シューマン宅に頻繁に足を運んでいた若きブラームスも盛んに演奏した。このピアノはローベルト亡き後、ブラームスに譲られている。

グラーフのピアノは、木製フレームでありながら豊かな響きを持ち、音域によりさまざまに音色が変化する。ブラームスはこの特徴を初期の作品に活かし、特に彼の〈ピアノソナタ第3番〉(1853年)の終楽章には、その効果が巧みに表現されているといわれる。

写真のピアノは1845年製のグラーフで、総木造りの構造、革張りのハンマー、ウィーン式アクションといった当時の特徴を忠実に残す希少な資料である。2019年、科研費研究の所産として、この楽器のオリジナル修復が完了した。ブラームスの作品をこのピアノで演奏すれば、ブラームスがイメージしていたであろうオーケストラのような多彩な響きを耳にすることができる。

（武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵）

✣目 次✣

学長退任にあたり　福井直敬 …… 1
就任のご挨拶　福井直昭 …… 2
好きで入った道をただ真っ直ぐに …… 3
桂文治
武蔵野を支える人々 …… 7
ピアノ調律師
卒業生インタビュー …… 9
武蔵野卒業生としての誇りを胸に　脇山亜希子
音楽の万華鏡 …… 11
記念年の音楽家タルティーニ　寺本まり子
MUSASHINO NEWS …… 12
✣ベートーヴェンホール
日本建築防災協会理事長賞·耐震改修優秀建築賞を受賞
✣外国人教授紹介(2020年度前期)
✣MUSASHINO掲示板
✣武蔵野音楽学園創立90周年記念寄附金 ご寄附をいただいた方々
✣栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
✣教員免許状更新講習のお知らせ
✣夏期講習会のお知らせ
✣2020年度 4月～7月 演奏会のお知らせ
✣中高生のためのステップ·アップ·プログラム
✣2020年度 オープンキャンパス·学校説明会＆体験レッスン

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程·博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田·入間·多摩

✣発　行✣
学校法人 武蔵野音楽学園
江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1 TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728 TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1 TEL.042-389-0711（代表）
http://www.musashino-music.ac.jp/
2020年4月1日発行　通巻第133号